

## 生物生息情報を建設に活かす～リスのいるまちづくりの取り組みほか

小松裕幸（清水建設（株）生態系ソリューション部）

### 1. 建設会社の業務と生き物との関わり

建設会社では、マンション、オフィス、生産施設等の建築、ダムや道路、トンネル、造成等の土木に関する設計や施工を行っている。建設業は、その業務の性格上自然を直接改変する機会が多い。こうしたことから、建設分野では環境配慮が欠かせなくなってきた。

また建設業は、生き物との関わりは一見あまりなさそうであるが、実は生き物との関連が少なくない。建設と生き物との関わりについては、大きく 3 つのパターンに分けられる。

1 つ目は、建設工事、建設物の存在等は生き物にとって脅威になるということである。これは、生き物の保護・保全系の話につながる。2 つ目は、生き物は建設物に被害を及ぼすリスクとなるということである。具体的には、食品・医薬品工場の異物混入、マンションや事務所ビル、工場等の鳥害（糞害等）、ネズミやコウモリによる被害等に結びつくということである。これは、ペストコントロール（有害生物防除業務）といった話につながる。3 つ目は生き物と建設物とが共存する（仲良くする）といったことであるが、ここからは、言うまでもなくビジネスが生まれるケースは多くない。

こうしたことから、建設関連分野では、生物の生息情報は、主として上記の保護・保全系の業務、ペストコントロール業務に活用しているケースが多い。

### 2. 事例紹介

保護・保全系の業務として 2 つ、ペストコントロール業務として 1 つの事例を紹介した。その概要については以下に示すとおりである。

#### (1) 保護・保全系

- ・パストラルびゅう桂台（山梨県大月市）：パストラルびゅう桂台は約 1000 戸の戸建て住宅団地。ここでは環境アセスメントで生息が確認されたニホンリスをシンボルとして様々な保全対策を実施した。
- ・水戸ニュータウン 1 次造成（茨城県水戸市）：住宅団地の調整池・公園について、GIS で環境分析を行い、その結果に基づきランドスケープデザインを実施した。

#### (2) ペストコントロール

- ・某社工場の防虫対策調査：工場の建設前に、建設地に生息する有害生物の調査を行い、その種や生息密度等について把握の上、これらの情報を設計内容に反映し、生物災害リスクの低減に努めた。

以 上